

#### 47. 心筋 $^{201}\text{Tl}$ シンチグラフィで発見された悪性胸腺腫の2症例

横川 晃治 板金 広 柳 志郎  
 秋岡 要 武田 忠直 (大阪市大・一内)  
 溝口 精二 (同・二外)  
 波多 信 望月 得郎 越智 宏暢  
 小野山靖人 (同・放)  
 松本 茂一 日高 忠治 中井 俊夫  
 (日生病院・放)

$^{201}\text{Tl}$  は心筋イメージング製剤として日常臨床に広く用いられている。今回、われわれは心疾患のため入院した患者で、 $^{201}\text{Tl}$  心筋シンチにて縦隔に異常集積を認め手術の結果、悪性胸腺腫と診断された症例を経験したので報告する。症例1は虚血性心疾患の患者でPTCAの効果判定のための負荷心筋シンチ施行時、前縦隔に異常集積を認めた。 $^{67}\text{Ga}$  シンチにて同部位に異常集積を認め、胸部CTでも腫瘍像がみられた。手術の結果はmixed cell typeの悪性胸腺腫であった。症例2は大量の心嚢液貯留のため入院となった。胸部X線CTで前縦隔に内部に石灰化を伴う腫瘍像がみられ、 $^{201}\text{Tl}$  心筋シンチでも同部位に異常集積を認めたが、 $^{67}\text{Ga}$  シンチでは集積はみられなかった。胸部X線CTからは奇形腫も疑われたが手術の結果はepithelial cell predominant typeの悪性胸腺腫であった。

呈示した2例は、いずれも胸部単純写真では縦隔腫瘍の診断は困難であり、非侵襲的検査としての核医学的手法は非常に有用であった。 $^{67}\text{Ga}$  と比べて胸腺腫に対する $^{201}\text{Tl}$  の診断率は高いといわれ、また $^{201}\text{Tl}$  は静注後早期に撮像することが可能でありエネルギーも適当で、骨への集積もないことから鮮明なイメージが得られ画像診断上有利である。しかし腫瘍に対する $^{201}\text{Tl}$  の集積機序は明らかでなく、今後 $^{201}\text{Tl}$  の胸腺腫に対する診断率、良悪性および組織型との関係、集積の機序についてさらに検討が必要であると思われる。

#### 48. 肺癌および炎症性肺疾患における $^{123}\text{I}$ -IMPと $^{67}\text{Ga}$ の集積パターンの比較検討

末松 徹 檜林 勇 高田 佳木  
 大林加代子 加納 恭子 坂本 武茂  
 込山 豊蔵 吉野 朗 木村 修治  
 (兵庫成人病セ・放)  
 坪田 紀明 八田 健 柳川 昌弘  
 吉村 雅裕 (同・胸外)  
 加堂 哲治 山本 裕之 (同・呼内)

肺癌および炎症性肺疾患について、 $^{123}\text{I}$ -IMP肺シンチグラフィdelayed像(以下IMP像と略す)と $^{67}\text{Ga}$ シンチグラム(以下ガリウム像)を対比し、集積パターンの相違について検討した。対象は原発性肺癌25例、転移性肺癌2例、間質性肺炎2例、びまん性汎細気管支炎1例、肺炎1例および肺化膿症1例である。IMP像は座位でIMP 3 mCiを静注し、24時間後に撮像した。ガリウム像は、ガリウム 3 mCi静注後72時間に撮像した。肺癌においては、IMP像では腫瘍周辺部の肺組織に集積増加を認めたのに対し、ガリウム像では腫瘍に一致する集積増加がみられた。IMP像では肺癌の二次性変化として無気肺を伴っていた5例全例で同部に集積増加を認めたが、ガリウム像では集積増加例はなかった。IMPは無気肺の描出に非常に鋭敏な薬剤であると考えた。活動性のびまん炎症においては、ガリウム像ではX線像上の陰影濃度にはほぼ比例する集積増加がみられたが、IMP像では異常の範囲は明確にできるものの、病巣内のRI分布は比較的均一であった。

#### 49. 肺小細胞癌における $^{67}\text{Ga}$ シンチグラフィの検討

加納 恭子 檜林 勇 高田 佳木  
 大林加代子 平田 勇三 末松 徹  
 押谷 高志 久島 健之 岡田佳代子  
 坂本 武茂 込山 豊蔵 吉野 朗  
 木村 修治 (兵庫成人病セ・放)

肺小細胞癌40例(男性35例、女性5例、46から80歳、平均年齢64.7)の $^{67}\text{Ga}$ シンチグラフィを検討した。TNMの示現度は、T因子はT<sub>1</sub> 1/3, T<sub>2</sub> 10/10, T<sub>3</sub> 20/21, T<sub>4</sub> 5/6, N因子はN<sub>0</sub> 1/2, N<sub>1</sub> 0/2, N<sub>2</sub> 10/24, N<sub>3</sub> 10/12, M因子は骨5/10, 肝5/6, 副腎1/4, 肺1/2, 脳0/2,